

エアフルト宣言—Urbio 2008 (仮訳)

この宣言は、2008年の5月21日から24日にかけてドイツのエアフルト市で開催された都市生態学専門家ネットワーク国際会議 (International Conference of the Competence Network Urban Ecology (CONTUREC)) 「都市の生物多様性とデザイン—都市における生物多様性条約の実践」の中で提起された。

1. 序文

増え続ける都市人口、気候変動、生物多様性の低下、これらはすべて相互に強い関連をもっている。2050年には、世界の人口の3分の2が都市部で生活するようになる予測されているが、その頃には、都市において「地球上で生存するための戦い」の勝ち負けがはっきりするだろう。

ローカルアジェンダ 21 の作成と、1992年の生物多様性条約 (Convention on Biological Diversity: CBD) を契機として、都市化が世界的な生物多様性の低下と悪化に影響を与えていることが広く認められるようになり、その後8回にわたって開催された締約国会議 (Conference of the Parties: COP) で議論が行われてきた。都市は生物多様性の保全に大きな問題をもたらしているが、都市が生物多様性保全の様々な機会を提供することについてはこれまでそれほど注目されることがなかった。

2007年3月にブラジルのクリチバ市で開催された締約国会議において、生物多様性に対する都市の可能性を認識する点で、大きな前進が見られた。世界各地からこの会議に参加した34名の市長と大勢の高級官僚の合意により、「都市と生物多様性」のための世界的なパートナーシップの動きが始まったのである。それは、世界の生物多様性を保護し維持するために、地方自治体がそれぞれの貢献を果たそうという内容であった。

2008年の5月21日から24日にかけて、世界の50か国からドイツのエアフルト市に集まった400名の科学者、計画者及び実務者により、都市部における生物多様性条約の履行のための最新の科学的、実践的なアプローチが、はじめて世界的な視野でとりまとめられた。この宣言は、Urbio 2008会議に参加した人々の考えを反映したものであり、生物多様性条約の目的を達成するためには、都市の生物多様性が極めて重要であることを謳っている。

2. 都市における生物多様性の重要性

都市の生物多様性とは、都市に見られる遺伝子、種及び生息環境など、生物の多様性と豊かさを意味している。

Urbio 2008会議の中で我々は、「都市の生物多様性」に関する知識と実践の現状について議論した。会議に参加した人々の様々な貢献を通して明らかになったのは、都市の生物多

様性の重要さと機能を理解して地域で実践するためには様々なアプローチが必要である、ということであった。そのようなアプローチとは、以下のようなものである。

- 一都市部における生物多様性の研究と評価
 - 一都市の生物多様性における文化的な側面
 - 一都市の生物多様性における社会的な側面
 - 一都市の生物多様性と気候変動
 - 一都市の生物多様性のデザインと未来
- 都市は、重要な実験の場であると同時に、人間と自然の相互関係を体験する場である。生物多様性条約の目的に照らした場合、都市の生物多様性の要件として次のような点を挙げることができる。

- 一都市の生態系が、際立った独自の特徴を持っている。
 - 一都市部が、進化と適応の中心的な場所になっている。
 - 一都市部に、地域の生物多様性から見て、ホットスポット（生物多様性が脅かされている地域）と生物種のるつぼである地域が混在している。
 - 一都市の生物多様性が、世界的規模で都市化が進む社会における生活の質に、少なからぬ貢献をしている。
 - 一都市の生物多様性は、人々が直に経験できる唯一の生物多様性である。
- 世界的な生物多様性の低下を食い止めるためには、人が都市の生物多様性を体験することが重要な鍵となる。なぜなら、直に自然に触れる機会が多いほど、人々は生物多様性を守るために行動する、と考えられるからである。

3. 今後の課題

- 生物多様性の低下を食い止め、都市を環境に恵まれた快適で豊かな場所にするには、次のようなことが必要になる。
- 一都市部の生物多様性に対する人々の関心を高めること
 - 一人間と都市及び世界の生物多様性の相互影響についての理解を深めるため、都市の生物多様性に関して、長期にわたる学際的な研究を促進すること
 - 一気候変動の研究と都市の生物多様性の研究を関連付けること
 - 一研究の成果を都市デザインの中に優れた形で統合するために、対話を活発化し、研究者、計画者、政策決定者及び市民が連携する仕組みを作り上げること
 - 一都市の生物多様性とデザインの教育を促進すること
- 生物多様性条約に則って既に開始された「都市と生物多様性」に関する新しい活動プログラムは、このような課題に取り組むための仕組みを提供するであろう。

上記の課題に取り組むためには、次のような作業と責務が必要となる。

- 科学者の団体、ネットワーク及び作業グループは、都市における生物多様性の重要さと、それが地域や世界に及ぼす影響について研究を行なう国際的なネットワークの活動を支援しなければならない。
- 各国組織及び国際組織は、研究を支援し、その研究成果を都市の生物多様性とデザインに生かした成功事例に導かなければならない。
- 自然の保全に係わる各国の政府及び部局は、全体を調整する仕組みを作上げる必要がある。この仕組みは、地域と地方における生物多様性と都市化に関する情報を収集し、とりまとめ、監視するものでなければならない。
- 地方自治体は、都市の生物多様性と持続可能な都市デザインを融合しなければならぬ。

我々は、都市の生物多様性の専門家として、次に挙げるような活動を通して、「都市と生物多様性」に関するこれからの生物多様性条約の主導的役割を支援する。

- 今回及び将来の会議を通して、我々の知識と責務を共有すること
- 都市の生物多様性の教育と研究のために、Urbio の世界的なネットワークを作り上げること
- 都市の生物多様性に関するネットワークである Urbio の会議を、今後の締約国会議と連携させ、とりわけ生物多様性条約との対話を継続することにより、都市の生物多様性を促進すること

下記の会議を代表して

都市生態学専門家ネットワーク国際会議 (CONTUREC) 「都市の生物多様性とデザイン—都市における生物多様性条約の実践」、2008 年 5 月 21 日～24 日、エアフルト、ドイツ、
www.urbio2008.com

Prof. Dr. Norbert Müller (Conference Chief Organizer), University of Applied Sciences Erfurt,
Leipziger Str. 77, 99084 Erfurt, Germany (corresponding author)

David Knight (Conference Organizer), Natural England, Wakefield, United Kingdom

Peter Werner (Conference Organizer), Institute Housing & Environment, Darmstadt,

